
一日均衡表の使い方と見方

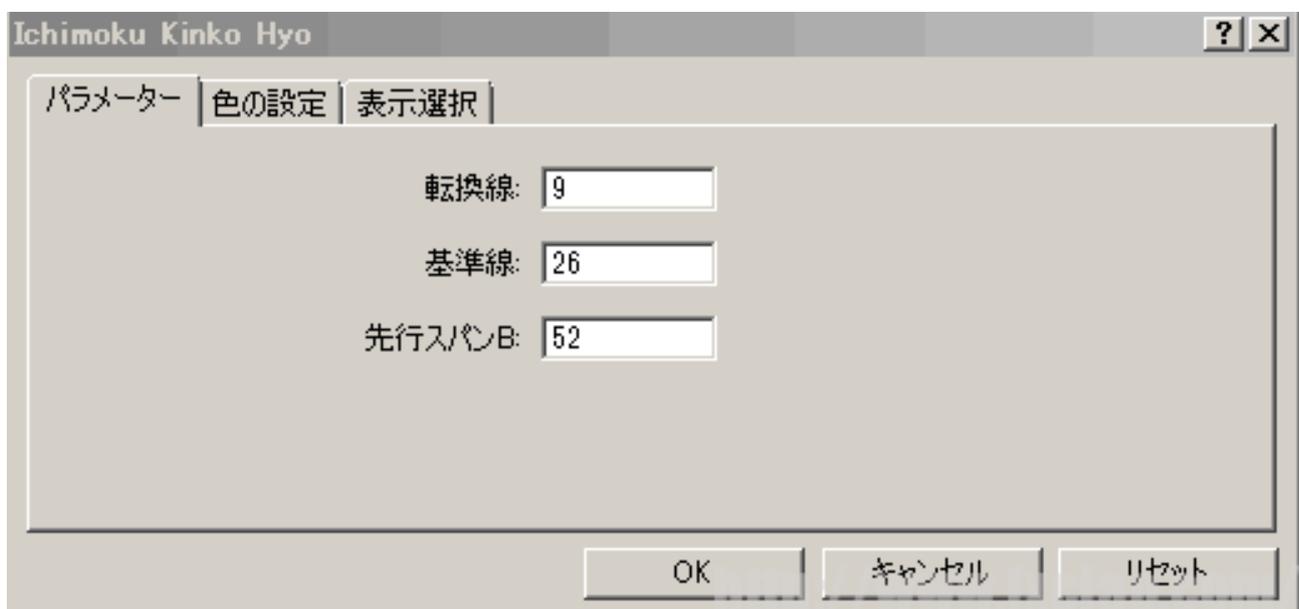
一目均衡表とは

一目均衡表は日本人が開発したテクニカルで、株式投資で人気の指標ですが、為替相場でも使えるためFXトレーダーにも人気があります。

一目均衡表の雲と他のテクニカルを組み合わせ使っている人も多いです。

一目均衡表の見方

MT4 で、標準機能の **Ichimoku Kinko Hyo** やカスタムインディケーターの **Ichimoku** を表示したものです。



パラメーターは、転換線 9、基準線 26、
先行スパン B が標準になっていますが、
基準線を 25 にして使っている人も多いです。



雲の点線が見つらいという人は、色の設定で、雲の線の太さを最も太くすると、このように塗りつぶされたものになります。

表示を雲だけにしたい場合は、色の設定で他の線を None にします。



これで雲だけになりました。

雲と移動平均線やボリンジャーバンドを組み合わせて使っている人も多いです。

ボリンジャーバンドと一日均衡表の 雲と組み合わせる

ボリンジャーバンドと一目均衡表の雲を組み合わせる

ボリンジャーバンドは、人気のあるテクニカルですが、ボリバンだけで売買ポイントを探ると、ダマシに合うことも多いので、他のテクニカルと組み合わせて使うことをオススメします。

RSI やストキャスティクス、MACD などと組み合わせるトレーダーも多いですが、「一目均衡表の雲」と合わせる方法もあります。

ボリンジャーバンドと一目均衡表の雲を使う

一目均衡表は日本人が作り出したテクニカル指標ですが、今では世界中の投資家に使われるようになっていきます。

MT4 で一目の雲とボリバンを表示

MT4 では、罫線分析ツールに「**Ichimoku Kinko Hyo**」、カスタムインディケータに「**Ichimoku**」という項目があります。

MT4 の一目のパラメータは、「**転換線 9、基準線 26、先行スパン B52**」となっていますが、そのままで大丈夫です。



使うのは雲だけなので、他の要素は色の設定を None にしてチャートから消してしまいます。



これが、ボリバンと一目均衡表の雲を同時に表示したチャートです。

雲を表示することで、トレンドの押し目や戻り売り、リバウンド、レンジからトレンドに変わる場面を捉えることができます。

ボリバンと雲を使ったエントリー

ボリバンと雲を使ったエントリー

■ HIGH でエントリー

雲の中を移動している時に±2σのラインで反発したらエントリー



このように、雲の中をローソク足が動いている時に、
-2σのラインで反発した時に、「**HIGH**」で
エントリーします。

—20にタッチして陽線が出た所がポイントになります。

確実性を求める場合には、見ているチャートの足が確定した所に入るのが良いのですが、

確定後だとエントリーが遅れるので、反発しそうだなと感じたら確定前に入ってもいいです。

—30のタッチを待っても良いですが、雲の中で—30にタッチする機会はありませんので、20のラインでいいです。

■ LOW でエントリー



売りエントリーは買いと逆で、**雲の中で+2σのラインで反発した所でエントリー**します。

+2σにタッチして陰線が出た所がポイントです。

このチャートの時であれば、その手前で陰線が出ている所でエントリーしても良いですが、雲に入った直後なので様子を見て、もう一度雲の中で+2σにタッチした後に入るのが良いと思います。

ボリンジャーバンドと RSI でエントリー

ボリンジャーバンドと RSI でエントリー

ボリンジャーバンドは、トレンド相場での順張り、レンジ相場での逆張りが基本となります。

2σとミドルラインの反発でエントリー



+2σや-2σで反発した時にエントリーします。足が確定した時点で、反発が確認できた時に入るので、一瞬2σにタッチした時に入らないように注意しましょう。

たとえば、図のように+2σで反発が確認できた時に「**LOW**」でエントリーする場合、

ポイントは-2σまで下げた所を狙いたいですが、

赤丸部分のように、ミドルラインで反発が確認できた時には、少ない利益でも決済します。

ボリバンのミドルラインで反発することも多く、

欲をかくと利益が損失に変わりますので、

ミドルラインで反発が確認しましょう。

ボリバンと RSI でエントリー



トレンド系指標代表のボリンジャーバンドと、オシレーター系指標代表の RSI を組み合わせて使っている方も多いです。

このように、ボリバンの $+2\sigma$ を超えた所で、RSI が 70 を超えており、買われすぎを示唆している場面では、売りエントリーします。

その後、ボリバンの -2σ を足の実体で超え、
 -3σ にタッチした赤丸の場面が決済ポイントになります。

この時にRSIは30を割り込み20に近づいており、
売られすぎを示唆していますので、決済と同時に
新規買いエントリーしても良いでしょう。

ボリバンだけでエントリーポイントを探るのは
難しいのですが、**他のテクニカル指標を組み合わせ**
ることで、売買ポイントがわかりやすくなります。

ボリンジャーバンドと平均足で 順張り・逆張りトレード

ボリンジャーバンドと平均足で 順張り・逆張りトレード

ボリンジャーバンドとローソク足の組み合わせでチャートを見ている人も多いと思いますが、トレンド転換を敏感に察知するために、「**平均足**」を使っても良いでしょう。

平均足は、ローソク足の実体部分の上辺・下辺に平均値を取り入れたもので、陽線や陰線が同じ色で連続して続きやすくなっています。



陽線⇒陰線、陰線⇒陽線に変わった所が、トレンド転換点になる可能性があり、ローソク足よりもトレンド転換に敏感に反応することができます。

MT4 に平均足を表示する方法

平均足とは、ローソク足の実体部分の上辺・下辺に平均値を取り入れたものです。コマ足とも呼ばれています。

視覚的にわかりやすく、トレンド転換を敏感に察知することができるので、人気の指標です。



平均足は、陽線や陰線が続きやすいようになっていますので、**陽線⇒陰線**に変わったり、**陰線⇒陽線**に変わった所でトレンド転換した可能性を示唆しています。



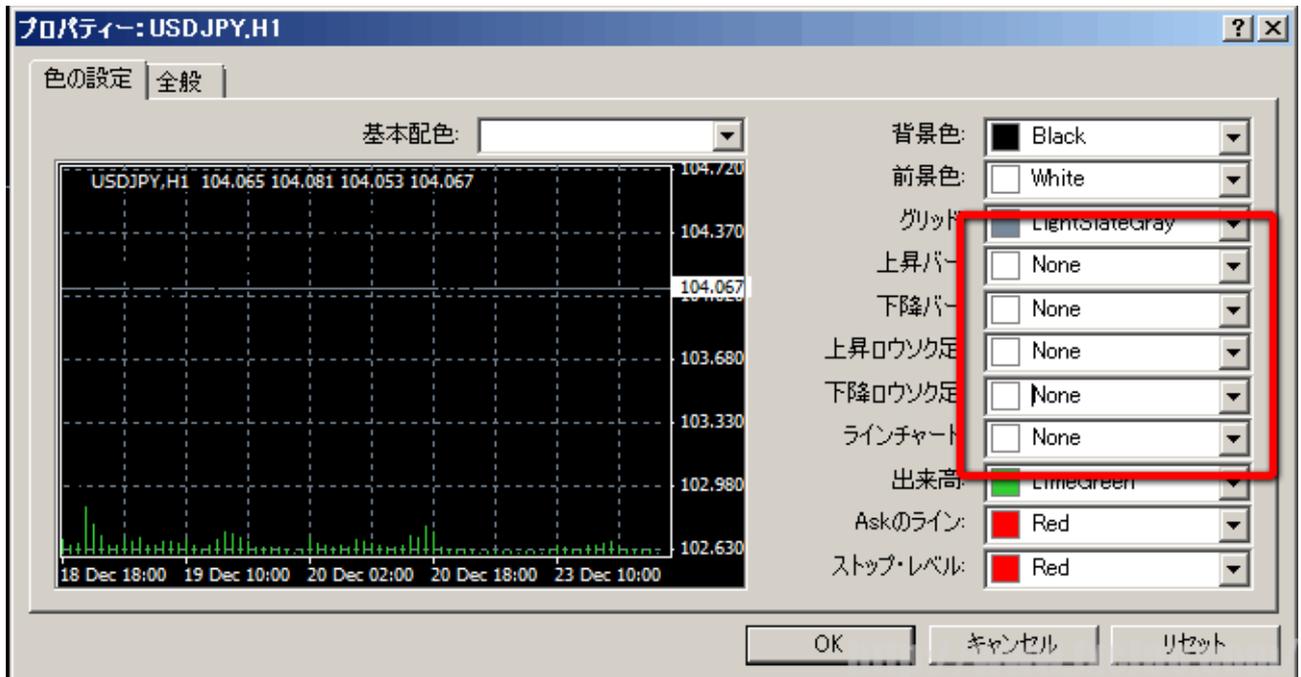
同じ時の平均足とローソク足を比較するとこのようになります。

MT4 に平均足を表示する方法

MT4 では、標準でローソク足、バーチャート、ラインチャートが表示できますが、平均足（コマ足）はカスタムインディケーターで表示することになります。



平均足を表示すると、このようにローソク足などと重なって表示されますので、元々表示されているチャートを非表示にします。



右クリックでプロパティを開き、「上昇バー・下降バー・上昇ロウソク足・下降ロウソク足・ラインチャート」を「None」にします。



これで平均足だけのチャートが出来上がりました。

ボリンジャーバンドと 平均足でトレード

ボリンジャーバンドと平均足でトレード

トレンド発生時の順張り



平均足が -3σ にタッチした後に反転し、足の色が変わり、ボリバンのミドルラインを超えた

①の所がエントリーポイントです。

また、ボリバンのミドルラインが上向きになった②の所や、 $+2\sigma$ を足の実体で超えた③でエントリーしても良いと思います。

下降トレンドの時は、 -2σ を超えた時や -3σ にタッチした時に、「LOW」でエントリーします。

レンジ相場の逆張り



ボリバンはレンジ相場で**逆張り指標**として使うことができます。

平均足を使う場合でも、2σを超えた所や3σにタッチした所で、逆張りでエントリーします。

足の色が変わった所でエントリーしてもいいですが、それだと入るのが遅れることがあるので、平均足の値動きの勢いが無くなった所で入るのが良いでしょう。

長い足が出ている勢いがある場面では、まだ反転しないことも多いので、値動きが小さくなり足が短くなってきた所でエントリーします。

レンジ相場が永遠に続くことはなく、いずれ上下どちらかに大きく動き出しトレンドが始まります。

トレンド発生時に逆張りで入るのはリスクが高いので、
トレンドが始まったと感じた時は、順張りで追従するようにしましょう。

RSI とボリンジャーバンドの 買いサインでエントリー

RSI とボリンジャーバンドの 買いのサインでエントリー

RSI とボリンジャーバンドを使ってトレードしている人も多いと思いますが、どちらか一方のみの場合、サインが出ても信頼度が低いため、負けることも多くなります。

RSI とボリバンを組み合わせ、下降トレンドからの反発を狙うことができます。

RSI は逆張りに使えますが、強いトレンドが発生している時には機能しないため、ボリバンや移動平均などのトレンド系指標と組み合わせるのが効果的です。

RSI + ボリバンで反発を狙う



RSI が 30 以下で推移している時に、
ボリバンの -2σ で反発し、足が陽線で確定する
か、 -3σ にタッチした所が、「**HIGH**」での
エントリーポイントになります。

こういった時は少し様子を見るのが良いでしょう。

その後、少し戻したかと思ったらまた下落を始めて、
②の場面で RSI が再び 30 を割り込んで、
ボリバンは -2σ にタッチして反発しています。

RSI がダイバージェンスしていますので、
ここで「**HIGH**」エントリーしても良いでしょう。
ただ、実際には、またそこから下落し、
 -3σ にタッチしてから反発しています。

その③の場面で、 -3σ にタッチした所で
「**HIGH**」でエントリーしても良いでしょう。

ダイバージェンスが 2 回発生していますので、
強いシグナルになります。

**下がっている時に逆張りの HIGH で入る場合、
底を見極める必要がありますが、リアルタイムに
底を見極めるのは簡単ではありません。**

ですので、上記の場合でも、②でエントリーする
のがポイントです。



②の位置で買って、チャートがボリバンのミドルラインを越えて行けば、そのままポジションを継続しますが、このようにミドルラインで跳ね返されてしまった場合、まだ下がる可能性が高いので、決済します。

その後、③のポイントで、再度入り直すのが良いと思います。②のポジションをそのまま持ち続けても良いのですが、どこが底になるのかはわかりません。さらに下げた場合、損失を拡大させることになります。

今回取り上げたケースでは、③の場面で反発し、トレンドが変わっていますが、③の場面でも同じように、ボリバンのミドルラインを超えられずに反落した場合、そこで一度決済します。

逆張りは、入るタイミングを間違えると大ケガしますので、注意が必要です。

ただし、確実に反発するのを待ち、ボリバンのミドルラインを越えてからエントリーするようだと、タイミングが遅すぎます。

逆張りの買いは、底で入ることで大きな利益が得られますので、HIGHでエントリーします。

決済売りポイント



反発狙いの買いエントリーの決済ポイントは、RSIが70を超えたり、ボリバンが $+2\sigma$ で反発し確定したり、 $+3\sigma$ にタッチしたり、直近高値を超えた所になります。

今回のケースでは、RSIが70にタッチした所で、ちょうどボリバンの $+2\sigma$ で反落し確定していますので、ここが決済売りポイントになります。